

令和 6 年 6 月 2 8 日現在

機関番号：3 4 3 2 6

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：2 0 K 1 4 9 3 8

研究課題名（和文）スペイン・カタルーニャの近代化過程に関する建築論・都市論的読解と現代的展開

研究課題名（英文）Architectural and urban theoretical study for the process of the modernization in Catalonia, Spain

研究代表者

人見 将敏（HITOMI, MASATOSHI）

京都美術工芸大学・建築学部・准教授

研究者番号：3 0 7 0 7 8 9 9

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1930年代のスペイン・カタルーニャ州を中心に建築・都市の近代化に関する活動を行った建築家集団G.A.T.C.P.A.C.に着目したものである。当該集団に関する資料は日本国内ではほぼ得られず、スペイン国内にのみ存在するものが多い。そのため主たる研究成果は、それら資料を現地の資料館等で得られた点にある。当該集団に関する一次資料（図面、写真、文書資料等）・二次資料（関連書籍）を数多く収集し、加えて、現存する建築作品および周辺環境（立地条件）の現地確認・調査も数多く実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代の建築や都市を考えるためには、現在の状況を形作った近代の時代を捉えなおす必要があり、その再検証が様々な形で進められている。本研究の学術的意義は、その再検証に寄与する点にある。スペインの近代建築運動、特に都市を重要なテーマとして建築提案や都市計画提案を行っていた当該集団の、研究の土台となる資料を得られたことで、建築論・都市論の今後の発展に貢献し得ると考える。加えて、本研究は、都市問題における建築的解決の一端を明らかにすること、つまり、豊かな都市・生活環境の提案に繋がるという点で社会的意義を有すると考える。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the architects group, G.A.T.C.P.A.C., who led the architectural and urban modernization mainly in Catalonia, Spain, in the 1930's. The most of the materials regarding this group are only available in Spain, therefore, the main achievements of this research were the numerous materials, collected from local archives. Specifically, a large number of the primary sources (drawings, photos, documents etc.) and the secondary sources (related books) were found and collected. In parallel of these archive researches, field surveys were conducted for the existing buildings and its surroundings whose architectural works were designed by the members of the group.

研究分野：建築論、都市論、建築意匠

キーワード：近代 都市 カタルーニャ バルセロナ G.A.T.C.P.A.C.

1. 研究開始当初の背景

現在のスペイン・カタルーニャ州のバルセロナは、世界有数の観光都市でありながら市民の豊かな生活の場が広がる。これは地域の歴史性だけではなく、1980年代から進められた都市計画バルセロナモデルの影響が大きい。その手法は「多孔質化」「公共空間の回復」の考えに基づくものであり、バルセロナオリンピックやRIBA ゴールドメダル受賞以降、都市デザイン・都市再生の優れたモデルとして、日本も含め現在も多くの国・都市で参照される。

そうした中、上記モデルの考えには、1930年代に活動を行った建築家集団 G.A.T.C.P.A.C.によるバルセロナの都市計画提案からの影響が見られる、とされる。

ここで、G.A.T.C.P.A.C. (現代建築の発展を目指すカタルーニャの建築家技術者集団、Grup d' Arquitectes i Tècnics Catalans per al Progrés de l' Arquitectura Contemporània) とは、スペインのカタルーニャ州において1930年代に建築・都市の近代化運動を展開した集団のことである。当該集団の属するカタルーニャ建築思潮が、建築家 A.ガウディに代表されるように地理・文化的背景から独自の発展を遂げていた中で、当該集団は、それまでの建築家と異なり当時ヨーロッパで展開された建築・都市の近代化運動と直裁的な関係を持ったという特徴がある。活動内容は多岐に渡り、CIAM スペイン支部の中心的役割を担いながら、建築・都市計画提案や近代建築運動の情報発信等を国内外に向けて行った。代表的な建築家としては、1937年パリ万博スペイン館等を設計し、後に CIAM 議長やハーバード大学デザイン学部長として建築・都市理論を展開したジュゼプ・リュイス・セルト(1902-83)や、バルセロナ建築学校(現カタルーニャ工科大学建築学部)の校長を務めたトーレス・クラベ(1906-39)等がいる。

近年、国・地域ごとの建築・都市の近代化の過程に関して再検証が進められており、当該集団の研究もスペインを中心に進められている。それらの研究は個別の社会・文化的背景や関係性等を踏まえた多面的な分析からなるものであり、これにより各々の特色が明らかにされつつある。ただし、当該集団の研究は、他国の建築の近代化運動に比べ歩みが遅れているのが現状である。ミクロストリア的視点から当該集団の活動実態については整理されたものの、当該集団の活動理念、特に、その活動の理解に最も重要な建築・都市的理念の把握は不十分と言える。しかし、当該集団の活動内容や CIAM への貢献、セルトによる近代建築・都市の発展への役割等をみると、その評価は十分とは言えない。

日本国内では当該集団に関する研究はほとんど為されていなかったが、申請者は本研究の開始前までに、当該集団の理念の特質が非様式的で土着性・無名性を帯びた建築に価値を見出す観点の中に存在するのではないかと考え、その具体的な内容と要因ならびに建築作品への展開の一端を明らかにしてきた。これは、当該集団の活動に、建築の工業化・規格化の促進とともに地域性(地中海の伝統的民家建築)に着目した内容が散見されたためである。

現代の都市デザイン手法への影響と上記の成果から、国際性と地域性の両立に基づく当該集団の活動と理念を建築単体としてではなく都市計画との連関の中で捉えることで、多孔質化による公共空間の創出とそれに相応しい建築意匠とを同時に考える方法を見出し、現代的な建築論・都市論へと展開するのではないかと申請者は考えた。

2. 研究の目的

建築意匠から見た都市デザインの方法論は確立できるのかを問いたいと考えている。そのために建築家集団 G.A.T.C.P.A.C.の活動や理念について建築論・都市論的読解を行い、特に都市空間と建築意匠の関係を捉える。それにより、既往研究の中で建築・都市の近代化過程において見落とされてきた内容を明らかにすること、敷衍して都市・地域再生に関する現代的な課題に対する展開を提示することが可能かを模索する。

ただし上記内容を実行するための資料が日本国内にないことから、本研究の目的としては、研究の土台としての、現地での資料収集調査をその主眼に置くこととする。

3. 研究の方法

主な研究方法と調査対象資料は以下になる。

当該集団による建築・都市計画提案に関する資料の調査

(図面や写真、パース等の図版資料、ならびにその計画主旨を示す文書資料、等)

都市形成史や、当時のスペイン、カタルーニャ州の生活・社会に関する資料の文献調査

現存する建築作品、ならびにその周辺環境の現地調査

上記調査結果の整理と分析

本研究期間での研究対象・範囲は、当該集団のさまざまな活動・計画のうち建築設計と都市計画提案に絞り、その活動や作品自体の新たな発掘は目指さないこととした。また、一次資料のほとんどはスペインのバルセロナやマドリードにて保管されており（一部については建築家らの亡命国（アメリカ・ハーバード大学内セルト・コレクション等）に存在）、デジタル・アーカイブ化も一部では進んでいるがまだ未整備の部分が多いため、スペインに赴いての調査を主として計画する。具体的には、カタルーニャ州の近現代建築の様々な資料を保管する、バルセロナ市にあるカタルーニャ建築家協会の図書資料室等での調査を計画する。

4．研究成果

まず、当初の研究期間である令和2、3年度は、コロナ禍の影響によりスペイン現地での調査を行えず、そのため、国内で可能な作業を進めた。国内外の既往研究の調査やこれまでに入手した資料の整理・分析等である。既往研究の調査では、カタルーニャ州・バルセロナの都市形成史や都市計画内容の把握、当該集団を構成する建築家や建築作品・都市計画提案の整理、そして建築作品の中で現存するものについての情報の確認等を行った。また、これまでに入手した資料である、当該集団による機関紙『A.C.』等の中から建築・都市計画提案に着目し整理を行った。また事例収集・比較研究という点から、他国の同時代的な活動に関する論考や昨今の建築論・都市論に関する研究の調査も行った。

研究期間を延長し、社会状況が緩和した後の令和4、5年度には、本研究の主たる目的である現地での資料収集・調査を実施することができた。その成果は以下ようになる。

1，資料・文献調査

バルセロナ市にあるカタルーニャ建築家協会の図書資料室やバルセロナ市立現代アーカイブ、ミロ美術館内の建築家ジュゼップ・リュイス・セルト・アーカイブ等、資料が保管されている施設数か所を訪問し、現地の研究者・施設職員の協力のもと、当該集団に関わる建築や都市計画案の図面、写真、パース、文書資料、書籍等を数多く閲覧・複写することができた。その一部には、複製ではあるものの貴重資料として保存されているものも含まれる。またマドリード市にあるソフィア王妃芸術センターでも、当該集団および関連する建築家らによる建築・都市計画案の資料（図面等）を複数確認することができた。その他、バルセロナ市内の書店・図書館等にて、当該集団に関するもの、ならびに上述のバルセロナモデルを含む現代のバルセロナの都市・都市計画について記された書籍等を複数点入手もしくは複写することができた。

2，建築作品・都市環境の現地調査

当該集団のメンバーによるもので今もバルセロナ市内に存在する建築作品は約70件あるとされている。そのうちのおよそ半数を、本研究期間内の調査で現地確認することができた。そしてその中のいくつかでは、外からの確認・調査だけでなく、室内や建物内の共用部についても、建物使用者の許可を得て可能な範囲で確認・調査することができた。また、都市との関係という観点から、建物自体だけでなく周辺環境の確認をできたことも、現地でしか得られない情報として、本調査の成果の一つと考えている。

研究期間を通じて、これまで日本国内では得られなかった当該集団に関する一次資料（図面資料等）・二次資料（関連書籍）を数多く収集でき、また現存する建築作品およびその周辺状況の現地確認・調査も同様に行うことができた点は、一定の成果を得られたと考えている。

入手した資料・調査内容を読み解きどのように建築論・都市論としてまとめていくかは、本研究期間に完遂できなかった調査の継続と合わせて、今後の研究での課題としたい。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------